

道東地域の金融経済概況

【全体感】

道東地域の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、減少している。個人消費は、新型コロナウイルス感染症による下押しが一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。生産は、弱めの動きがみられる。労働需給は、引き締まっている。

この間、短観でみた企業の業況感は、改善している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症や国際商品市況の動向が管内の経済活動全般に及ぼす影響を注視していく。

【前回からの変化】

項目	前回変化	基調判断	
		前回	今回
全体判断	→	道東地域の景気は、緩やかに持ち直している。	道東地域の景気は、緩やかに持ち直している。
公共投資	→	幾分減少している。	幾分減少している。
設備投資	→	高水準で推移している。	高水準で推移している。
住宅投資	→	減少している。	減少している。
個人消費	→	新型コロナウイルス感染症による下押しが一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。	新型コロナウイルス感染症による下押しが一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。
生産	↘	一部に弱めの動きがみられる。	弱めの動きがみられる。
雇用	→	引き締まっている。	引き締まっている。

※ 前回変化「↑」、「↘」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは「↑」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は「→」となる。

1. 需要項目別動向

公共投資は、幾分減少している。
公共工事請負金額は、前年を下回った。

設備投資は、高水準で推移している。

道東地域の12月短観における2022年度設備投資計画は、一部に能力増強や生産性向上を目的とした戦略投資がみられ、全体では前年を上回る計画となっている。

ただし、新型コロナウイルス感染症や資材価格の動向など、設備投資を取り巻く環境の不確実性が引き続き高いことから、今後の投資実行状況を注視していく必要がある。

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数は、持家、分譲が前年を下回り、貸家が前年を上回った。

個人消費は、新型コロナウイルス感染症による下押しが一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。

主要小売店売上高は、堅調となっている。

耐久消費財をみると、乗用車新車登録台数（含む軽）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回り、全体でも前年を上回った。家電販売は、弱い動きとなっている。

旅行・観光関連をみると、主要温泉地の宿泊人数、市内ホテルの宿泊人数は、緩やかに持ち直している。空港乗降客数は、緩やかに持ち直している。

2. 生産

生産は、弱めの動きがみられる。

主要生産品目別にみると、乳製品、水産加工品ともに、弱めの動きがみられる。

3. 雇用

労働需給は、引き締まっている。

4. 企業倒産

企業倒産は、倒産件数、負債総額ともに前年を下回った。

5. 金融情勢

預金残高は、個人預金の増加から前年を上回っている。

貸出残高は、前年を上回っている。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

以 上

(注) 道東地域とは、当店の業務区域（釧路、帯広、根室の3市および釧路・十勝総合振興局、根室振興局の所管区域）を指す。